

鹿児島湾奥におけるイワガキ養殖及び販売支援

始良・伊佐地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島湾奥に位置する福山町漁協（図1）では、新たな漁業導入の可能性を検討するため、平成26年度に県水産技術開発センター産種苗を用いたイワガキ養殖試験を開始した。その後、試験経過が良好だったことから、平成27年9月に養殖へ移行した（図2）。

種苗導入から2年を経過し、販売可能なサイズとなった「霧島いわがき」を生食用として販売するため、品質・衛生管理手法の習得や販売形態等の決定について養殖グループを支援した。

【普及の内容・特徴】

1 施設整備について

- ・養殖係留施設やカキ清浄化用の機器導入のため、浜の活力再生支援事業の活用を指導した。

2 品質・衛生管理について

- ・県内においては養殖事例が少ないため、熊本県天草郡苓北町において視察研修を行い、日常管理や出荷方法、販売体制等の知見を得た。
- ・養殖業者代表とともに保健所へ出向き、出荷基準や表示方法の情報を収集し、得られた内容を養殖グループ全員で共有した。

3 PR、販売について

- ・霧島市沿岸で養殖したイワガキのうち、200g以上を「霧島いわがき」とし、霧島市水産まつりや県広報番組を活用し、PRに努めた（図3）。
- ・業者会を開催し、販売サイズ、表示ラベル、販売方法について決定した。
- ・初めての販売会時に購入者へアンケート調査を実施した。

【成果・活用】

- ・県補助事業を活用し、紫外線海水殺菌装置を整備（H28）するとともに、グループ員間でカキ清浄の作業手順について共有を図った。また、電動貝掃除機の導入について助言、指導し、日常管理作業の効率化を図った（図4）。
- ・先進地や保健所で得た知見を基に海水・カキの衛生検査を行い、販売可能であることを確認した。また、検査結果については、販売会場に掲示し消費者へ説明を行った。
- ・イワガキの開け方を紹介した販売促進用パンフレット（図5）を自作し、購入者へ配布することで購入者の調理への意欲促進に努めた。
- ・自分達の育てたイワガキが実際に売れることを体験できたことで（図6）、今後の養殖への意欲向上に繋がっているところであるが、販売会での消費者の反応やアンケート調査結果から（図7）、地元での「霧島いわがき」の認知度向上と購入機会をより多く提供することの必要性を感じている。

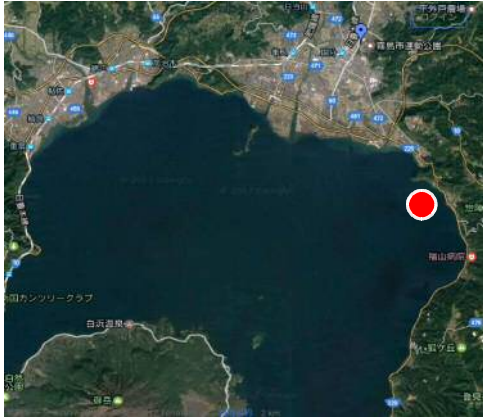


図1 養殖漁場位置



図2 提灯かごによる垂下式養殖



図3 県広報番組取材風景



図4 電動貝掃除機による付着物除去作業

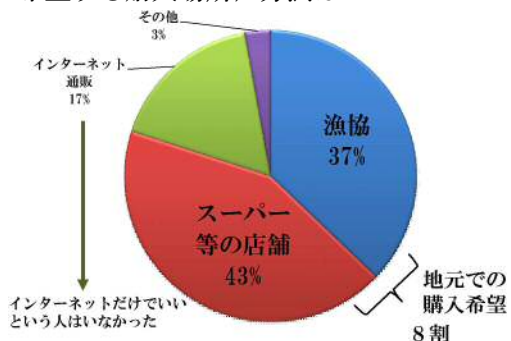


図5 パンフレット



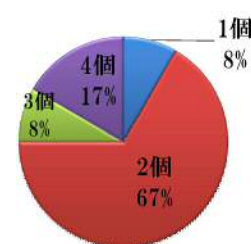
図6 初販売会

希望する購入場所、方法は



購入数

今回初めて購入した人



食べたことのある人



図7 アンケート調査結果